



毎年5月の遠足は、その年によって天候が大きく違います。気温30度の真夏日の中、歩いた年もありました。今年はずっと、いつも目にする桜が咲いていません。田んぼの中を歩いていくと、木々や草花が芽吹いたばかりの様子でした。夏が待ち遠しい子どもたちが、木々や草花と共に大きく伸びていけるといいです。  
(旭川市立永山西小学校)

No. 114 (平成 25 年 7 月 1 日)

おもな内容

随 想	1
研修講座寸描	2
教育講演会のご案内	3
研究室だより	4
研究協力校の紹介	5
研修講座のご案内	6
心に残る授業 その67・人事短信	7
お知らせ・出前講座のご案内	8



随 想

「村を育てる学力」再考

上川教育研修センター

所長 鷲見 正雄

「頭よくなったら、米作りみたいな儲からん仕事なんか継いでくれないから、勉強はそこそこでいいよ。」これは、新任教師のころ、家庭訪問で聞いた話である。また、浜の学校を経験した友人の教師からは、「漁師やらんくなるから、先生、余分なこと教えんでもいい。」という親のことばを伝え聞いたことがある。今、このようなことを言う親はいなくなつたのだろうか、勉強すること、つまり、学力を身に付ける意味の認識は変わったのだろうか、同じなのだろうか。

狭く豊かさを欠いていけば、子どもは「価値」に対する食欲不振を起こす。食欲不振は言い換えれば「主体性」の弱さであり、子どもの学力はこの「主体性」の在り方如何による。と論を展開する。今日、子どもの生活は、戦後間もないころに比べ、夢のようになつたと言われるが果たしてそうだろうか。ものの豊かさや情報化が子どもの生活に奥行きを与え、豊かにしているとは思えない。学びへの食欲不振が気になつて仕方がない。

昭和三十二年に東井義雄著「村を育てる学力」が出版され、教育界に大きな波紋を広げた。学習の基盤にこの国土や社会に対する「愛」を据えつけ、「村を捨てる学力」ではなく「村を育てる学力」を育てたいという考えを愚直なまでに実践し、子どもの学力を高め、寒村を変えていったという記録である。

地域教育研究団体の研究テーマにふるさとや地域の活性化を願うものや「主体的に」という文言がついた学校の研究主題などを多く見かけるが、「村を育てる学力」を目指してのものだととらえない。「村を育てる学力」を身に付けた子どもは国や社会を愛し、少子高齢化の問題や過疎化の問題、環境の問題、理念を定かにしないで進展する科学技術の「影」の問題など、難問解決に、主体的に果敢に挑戦するにちがいない。

「愛」が伴う「学力」を目指しているはずである。氏は言う。「教科の論理」つまり学問の論理で学んだ「普遍妥当な価値」は子どもたちの「生活」の中に消化されてはじめて「学力」となる。自分のこととして学ぶから村の土を愛することにつながる。ところが、子どもの「生活」が

今なお、戦後の偉大な教育実践者に学ぶところは多い。



総合的な学習の時間を活用し、地域ボランティア「愛の実践」を行っています。小中合同で毎年この時期に、自分の住む地域をきれいにしようと「グリーン作戦」を頑張っています。  
(愛別町立愛別中学校)

センター 日誌

- 4月1日 新任所員就任
- 4月17日 研修講座講師委嘱状交付式
- 4月22日 講座内容研究協議会
- 4月25日 講座受講希望第一次締め切り
- 5月14日 パソコン講座運営委員会議
- 5月31日 研修講座開始(特別支援教育)
- 7月1日 パソコン講座開始(表計算)
- ※ 毎週火曜日 センターだより第114号発行
- ※ 随時 研修講座講師打合せ会議

研修講座  
寸描  
その1

### 委嘱状交付式、 講座内容研修協議会



四月十七日、三十五講座の講師八十九名にお集まりいただき、研修講座の講師委嘱状交付及び講座内容研究協議会を実施いたしました。

その後の講座内容研究協議会では、教育の今日的課題を追求できる講座づくりを目指して、内容・日程等について具体的な打合せが行われました。

五月十四日の「特別支援教育」を皮切りに、本年度の研修講座がスタートしました。

#### 1 特別支援教育① 5/14

立田 祐子 (北海道立特別支援教育センター) 教育学的障害教育室 研究員

山川 昌子 (永山南小) 教諭

萩野 里香 (忠和小) 教諭

佐藤 歩 (神楽中) 教諭



### 講座の様子から

特性に応じた指導、個別の指導計画の作成等、児童が必要とする支援を的確に把握する大切さを学ぶことができました。具体的事例に基づいた講義、提言、交流は、特別支援教育の経験が少ない者として、大変有意義な研修となりました。

(旭川市立緑新小学校 小川 剛史)



校長先生や先輩事務職員からの講義、事務センターによる実務に関する講義、旭川及び上川管内からの提言とそれに対する研究協議と幅広い内容で、今後の実務に役立つ情報を得ることができ有意義な研修でした。ありがとうございました。

(旭川市立千代ヶ岡小学校 田中 精二)

#### 2 学校事務実務 5/15・16

吉崎 隆 (神楽岡小) 校長

内田 七生 (北海道教育庁教育職員局職員事務センター) 市町村立学  
校手当認定第一グループ主任

大谷嘉次郎 (比布中央小) 事務職員

1 学級経営① 5/17

三浦 礼子 (高台小 教頭)  
 江口 雅史 (共栄小 教諭)  
 関田 恒星 (旭川小 教諭)  
 築瀬 充宏 (東明中 教諭)

講師



学級経営における教師の振り返りや、評価の重要性、心理テスト(Q-U)の活用方法等、大変有意義なものでした。また、児童への声かけや働きかけ等、すぐに実践できる事例が参考になりました。わかりやすくご指導いただき、ありがとうございました。  
 (東神楽町立東神楽小学校 南 貴也)

教育講演会のご案内

〈演題〉「これからの教育と学校・教師の役割」

〈期日〉 八月一日(木)

受付 十三時〇〇分  
 講演 十三時三十分

〈会場〉 旭川市大雪クリスタルホール  
 (旭川市神楽三条七丁目)

〈講師〉



新井 郁男氏  
 (星槎大学教授・  
 上越教育大学名誉教授)

この度、上川教育研修センター開設四十周年を記念して、長年日本の教育をリードしてきた教育学者の新井郁男氏にご講演いただくことになりました。演題は、「これからの教育と学校・教師の役割」と題して、知識基盤社会を展望していただくとともに、今後の学校・家庭・地域の役割はどうあるべきかについて、ご講演いただきます。新井郁男氏は、その著書で「こなす学校から創る教育」を目指す事を通して、学校の哲学と教育活動の質の向上が求められていると述べています。また、知識基盤社会における教科指導の課題として、教科横断的な指導と体験が重視されるようになった経緯についても解説されています。一方、家庭での話し合いを通じて、子どもに様々な役割を果たさせることは、学力形成の土台を築くことにつながっていくと人間形成の原点として、家庭教育の重要性にも言及しています。  
 夏季休業中は、研修の絶好の機会ですので、ぜひこの教育講演会に多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

〈主な著書〉

- 「現代学校改革論」  
1981 教育開発研究所
- 「学習社会論」  
1982 第一法規
- 「学校社会学」  
1994 樹村房
- 「教育経営論」  
1999 日本放送出版協会
- 「新しい学校を創る  
リーダーシップ」  
2000 教育開発研究所
- 「ゆとりの学び、ゆとりの文化」  
2001 教育出版

〈講師略歴〉

昭和10年、東京生まれ。東京大学教育学部卒業後、昭和34年文部省入省。昭和41年に国立教育研究所に転任、その後、主任研究官となる。東京工業大学助教授を経て、昭和59年に上越教育大学教授に就任。昭和64年に上越教育大学副学長。その後、愛知学院大学教授、放送大学教授、同埼玉学習センター所長を経て、現在、星槎大学院教育学研究科教授。上越教育大学名誉教授。

国内外で活躍される方々の自伝・評伝などを基に「生き方と青少年時代の体験との関連性」を鋭く分析。「人間の生きがい」をテーマにした講演にも定評があります。

上川教育研修センター

第15次研究3年次のスタート

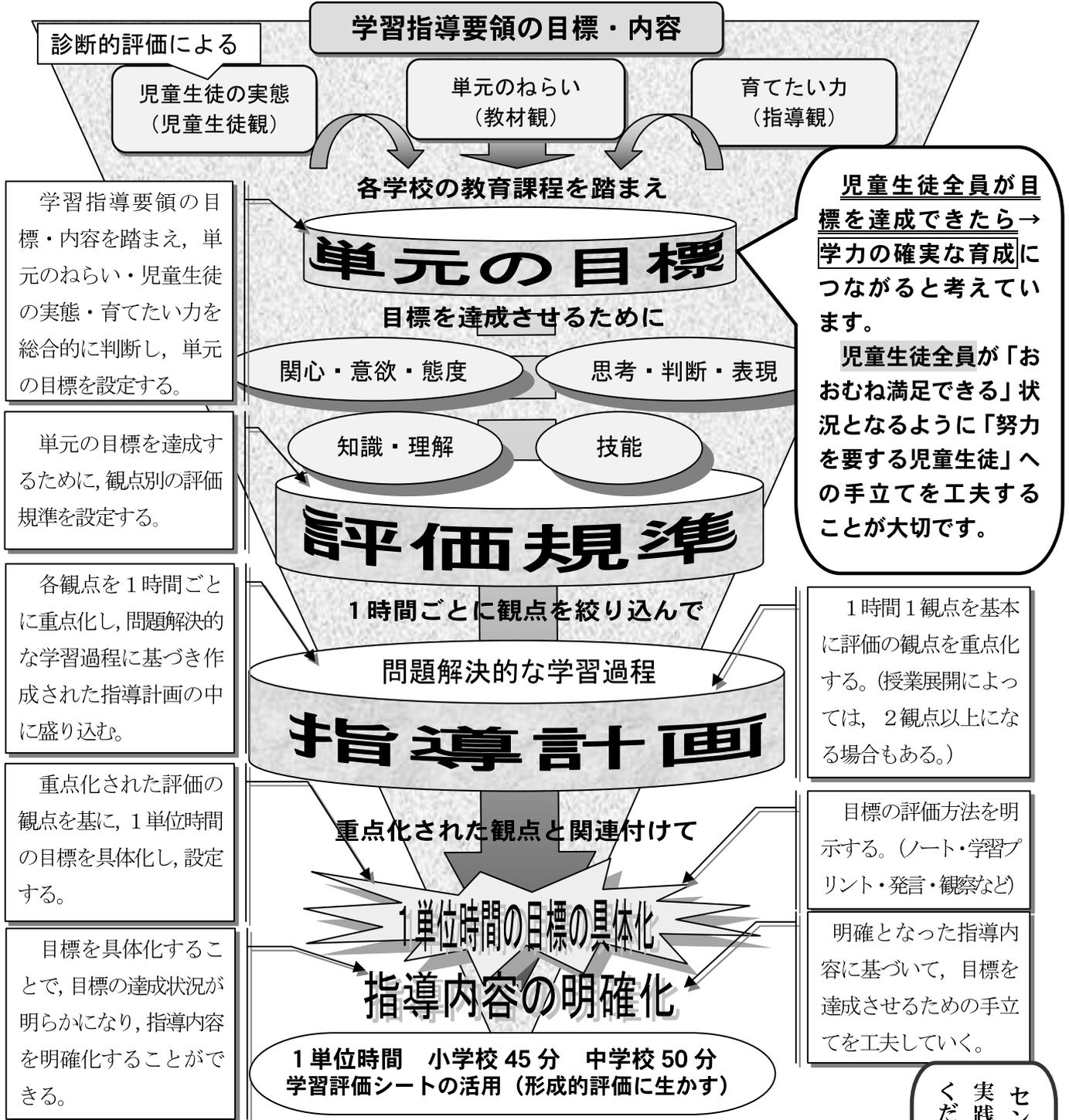
研究主題

学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方

～目標達成に向けた授業構築～

学力向上に  
向けて今、  
研究室では

◆今回のセンターだよりでは、目標達成に向けた授業構築の「目標の具体化及び、指導内容の明確化の手順」についてご紹介いたします。（詳しくは、紀要をご覧ください。）



【センター所員研】センターの研究について授業検証を行っています。

○6月研は、東神楽町立東神楽中学校 堀川 誠二 研究員 中学3年 理科でした。

○9月研は、旭川市立緑が丘小学校 清杉 陽一 研究員 小学1年 国語です。

# 平成 25 年度「研究協力校の紹介」

## 旭川市立神楽岡小学校

〔研究主題〕

「自信をもって学びを高める子の育成」  
 「達成感を味わわせる算数科指導」

一 研究の重点  
 学習指導要領に照らし合わせ、児童の実態に即した目標と指導内容を設定し、効果的な指導計画を工夫し、児童が互いに学び合い、考えを共有したり、新しい視点を獲得したりして、考えを深めることができる言語活動の在り方について研究する。

二 研究の内容

- 指導計画の工夫
- 言語活動の充実
- 総括的評価による単元の目標達成状況の把握

三 研究計画

- 4月 研究内容の共通理解
  - 5・6月 研修部提案授業
  - 7月～9月 研究授業指導案検討
  - 10・11月 全校研
  - 12月 特別支援教育授業交流
  - 1月～3月 実技研修会
- 研究のまとめと次年度に向けて



## 鷹栖町立北野小学校

〔研究主題〕

「豊かに学び高め合う子どもたちの育成」  
 「考える楽しさを実感できる算数科の指導の工夫」

一 研究の重点  
 基礎的・基本的な知識や技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力を育て、一人一人を大切に授業を構築する。また、学び合いの中から深まりのあるものへ充実・発展させる学習指導を目指す。

二 研究の内容

- 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる指導計画の工夫
- 効果的な学び合いの工夫
- 評価を生かした指導の在り方

三 研究計画

- 4・5月 理論研究及び研究内容の共通理解
- 6月 校内授業研究①
- 7・8月 授業構築及び校内授業研究の指導案検討
- 9月 校内授業研究②
- 10月 授業構築及び校内授業研究の指導案検討
- 11月 校内授業研究③
- 12月～3月 研究のまとめ・新研究に向けて



## 旭川市立神楽中学校

〔研究主題〕

「主体的な学習を推進し、  
 確かな学力を育む教育活動の推進」  
 「思考力・判断力・表現力の育成」を  
 目指した指導と評価の工夫」

一 研究の重点  
 教科をはじめ、教育活動全般において、一単位の指導目標を具体的に設定し、その達成に向けた活動や手立てを工夫し、その達成状況を評価しながら、指導と評価の一体化を図る学習指導を目指す。

二 研究の内容

- 言語活動を生かした基礎・基本の定着を目指す授業づくり
- 「思考力・判断力・表現力」を高める指導と評価の工夫
- 「主体的な学習」を確立するための指導と評価の工夫

三 研究計画

- 4・5月 研究の構想、理論的研究
- 6・7月 研究授業の構想、校内授業研究①
- 8・9月 指導案検討、校内授業研究②
- 10月 校内授業研③（含公開研）
- 11月 授業公開週間
- 12月～3月 研究のまとめ 次年度に向けて



## 夏季休業を利用して研修を深めませんか？

夏季休業中及び夏季休業直後の研修講座申し込みを随時受け付けております。

希望される場合は研修センター（24-2501）にご連絡ください。

開催期日	研修講座名	会 場	備 考
7月25日（木）	指導技術基礎	研修センター	
7月25日（木）	国際理解教育	研修センター	
7月26日（金）	国語科指導①	研修センター	2回目9月4日
7月29日（月）	社会科指導①	研修センター	※2回目10月8日
7月30日（火）	算数・数学科指導①	研修センター	2回目8月30日
7月31日（水）	理科指導①	研修センター	2回目9月3日
7月31日（水）	外国語科（英語）指導①	研修センター	2回目8月29日
8月1日（木）	教育講演会	旭川市大雪クリスタルホール	
8月2日（金）	生徒指導①	研修センター	2回目10月10日
8月2日（金）	幼稚園教育	研修センター	
8月6日（火）	道德教育①	研修センター	2回目10月16日
8月6日（火）	技術・家庭科実技	旭川市立緑が丘中	
8月7日（水）	いじめ・不登校	研修センター	
8月7日（水）	生活科・総合的な学習の時間①	研修センター	2回目9月10日
<b>～夏休み終了直後に行われる研修講座～</b>			
8月28日（水）	音楽科実技	旭川市立愛宕小	
8月29日（木）	外国語科（英語）指導②	旭川市立啓北中・春光小	
8月30日（金）	算数・数学科指導②	旭川市立神楽岡小・広陵中	
9月3日（火）	理科指導②	旭川市立緑新小・永山南中	
9月4日（水）	国語科指導②	旭川市立永山小・緑が丘中	

※社会科指導の2回目は、当初10月9日（水）の予定でしたが、8日（火）に変更となりました。

### ■ パソコン講座

画像処理、プレゼンテーション、動画編集の講座では、タブレット PC (iPad) も使いながら運営する予定ですので、ぜひお申し込みください。

開催期日	講 座 名	会 場
7月26日（金）	小学校の校務に生かす表計算活用講座	研修センター
7月31日（水）	学校で役立つプレゼンテーション活用講座	研修センター
8月2日（金）	校務に生かす表計算個別課題解決講座	研修センター
8月6日（火）	学校で役立つ動画編集講座	研修センター
<b>～夏休み終了直後～</b>		
8月30日（金）	校務のための表計算入門講座	研修センター

# 心に残る授業

その⑦



旭川市教育委員会  
教育指導課課長補佐  
末木 良典

私が心に残っているのは、国語科の第二学年の授業です。

それは、「書くこと」の領域で、友達の良いところを見つけて紹介文を書く単元の授業でした。

その授業では、単元の構成の工夫として、終末にお互いの紹介文を読み合う活動を位置付け、子どもに目的意識や相手意識をもたせていました。

また、「書くこと」の指導事項のうち、「取材」と「構成」の指導の重点化を図り、子どもの実態や教材の特性を踏まえ、本単元で子どもに身に付けさせたい力を明確に押さえています。

私が見せていただいた授業場面は、取材メモを整理し、紹介文の構成について考えさせる時間でした。

低学年では、構成を考えることによって自分の考えを明確にしていくことが重要になります。まさに子どもたちは、付箋に記述していた取材内容を基に構成を考える中で、自分の伝えたい友達の良さを明確にしていきました。

子どもたち一人一人が目的意識をもち、意欲的に学習に取り組みとともに、自分の考えをしっかりと記述していく姿が印象的でした。

この授業から、子どもの主体的な学びを実現することや、子どもの発達段階等を踏まえ、指導のねらいを明確にすることの大切さを改めて実感しました。

さらに、日常の取組として、子どもに、「書けた↓できた」ではなく、「書けた↓読み返した↓直した↓できた」という姿勢を大切にしている指導を行っていると聞きしました。

この姿勢を小学校低学年から重視する意義は大きいと考えます。まさに、国語科で求められている、「実生活で生きてはたらく、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けさせる」取組でした。

# 人事短信

平成二十五年就任・退任研修センター所員を紹介します。



**所長** 鷲見 正雄  
上川の子どもの質の高い教育を提供する発信源となるよう努めます。よろしくお願ひします。



**副所長** 矢口 元晴  
管内教育の発展のため魅力があり充実した研修内容を目指し、積極的に活用される研修センターとなるよう努力致します。



**研究事業部長(近文第小)** 川瀬 元信  
各学校の研究に活用できる一杯努力して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



**指導員(緑が丘中)** 伊東 靖彦  
有意義な研修講座となるよう微力ではありますが努力して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



**指導員(永山西小)** 森木 真也  
実り多い研修講座となりますよう精一杯努力致します。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



**研究員(緑が丘小)** 清杉 陽一  
今年度センター研究員としてお世話になります。まずは自分のため。さらに上川の教育を盛り上げられるよう頑張ります。



**研究員(永山中)** 青木 賢二  
毎日の授業に生かされる研究を心がけ、少しでも貢献できるように努力して参ります。よろしくお願ひいたします。

**退任** お世話になりました

○前 所 長 山下 尚年

○前 研究事業部長 玉井 一行

○前 指導員 伊藤 文江  
(士別市立多寄中)

○前 指導員 藤本 友紀  
(旭川市立神楽岡小)

○前 研究員 貝谷 雅敏  
(旭川市立東栄小)

○前 研究員 菅原 大  
(附属旭川中)

# 研修センター所員

所長	鷲見 正雄
副所長	矢口 元晴
事務部長	渡邊 修二
事務員	小林 晴美
事務員	笹谷 青子
指導員	吉野 法行 (光陽中)
指導員	吉田 明弘 (緑新小)
指導員	伊東 靖彦 (緑が丘中)

指導員	森木 真也 (永山西小)
研究事業部長	川瀬 元信 (近文第小)
研究員	北川 真美 (春光小)
研究員	小野 義幸 (東聖小)
研究員	相澤 朋子 (共栄小)
研究員	堀川 誠二 (東神楽中)
研究員	清杉 陽一 (緑が丘小)
研究員	青木 賢二 (永山中)

# アンケートのご協力をお願いします

これまで研修センターでは、各研修講座の閉講式で受講者にアンケートを実施させていただき、その結果を講座運営の改善に生かしてまいりました。今年度からは、講座受講後の2か月後に「追跡アンケート」も実施し、受講者の皆様の声を参考にさせていただきながら、さらなる改善を図っていきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。

## 上川教育研修センターのサイトをご利用ください

「2か月後アンケート」が、  
サイトからダウンロード  
できるようになりました

昨年度より上川教育研修センターのサイトが、リニューアルされました。URLも変わりましたのでご注意ください (<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>)。「2か月後アンケート」もこちらからダウンロードできます。ご協力をお願いします。



- 施設概要：研修センター利用（宿泊や貸室など）について掲載しています。
- 研究室：研究紀要が見られます。
- 開催要項：講座の一覧や講座の要項のダウンロードができます。また、申込書のダウンロードもできます。
- センターだより：年間3号発行される上川教育研修センターだよりのバックナンバーを読むことができます。

- 資料室：研修センターにある様々な文献のデータベースをダウンロードして一覧を見ることができます。
- アンケート：2か月後アンケートやパソコン実技講座の受講アンケートなどがあります。
- リンク：教育委員会や教育関係センター・行政・研究機関・自治体のリンク集です。

## 出前講座のご活用を

出前講座は、校内研修および地域の教育研修を支援することを目的としています。各学校だけでなく、教育研究団体・サークルなどの要請にもお応えします。申込み方法、講座内容の例は下記の通りです。ぜひ、ご活用ください。

### 申込み方法

「研修講座開催要項」P.32にあります「出前講座受講申込書」に必要事項をご記入の上、研修センターへFAXしてください。

今日的な教育課題	放課後学習、学力向上、キャリア教育、小中連携など
教科等指導（国、算等）	指導計画、評価、言語活動等、校内研究にかかわる事項など
小学校外国語活動	様々なアクティビティー、ALTとの効果的な指導の在り方など
各種実技指導	リコーダー（音楽）、木版画（図工・美術）、毛筆（書写）など
生徒指導	いじめ・不登校への対応、教育相談、ピアサポートなど
特別支援教育	各種発達障害の理解、交流および共同学習など
パソコン実技	表計算、画像処理、プレゼン、WEB制作など

発行日  
平成二十五年七月一日  
上川教育研修センター  
〒077-0103 旭川市六条通四丁目  
電話 0166-242501  
株式会社あいわプリント  
責任者 鷺見正雄  
印刷所

※この用紙は再生紙（古紙70%）を使用しています。



三浦文学と北海道  
～『水点』の  
物語から見る～  
4/10～4/30

研修センター一階奥にある第二研修室の壁面をギャラリーとして開放しています。絵画、書道、写真、手芸、実践発表など様々な展示にご利用いただけます。また、ご鑑賞にもお気軽に足をお運びください。多くの皆様のご利用をお待ちしています。研修センターまでお問い合わせください。

## ギャラリー一覽